

音声学を知ろう！～ポケモン名から考える～

音楽班:山西菜月、布浦ことの

要約

本研究の目的はタイプ別のポケモンの名付けと、音象徴の相関関係を示すことである。実験において、「ゴースト」タイプのようにごつごつして角張ったイメージが有るポケモンには阻害音が、「フェアリー」タイプのよようにふわふわして丸っこいイメージが有るポケモンには共鳴音ならびに両唇音がふさわしいことが明らかになった。したがって本研究では、タイプ別のポケモンの名付けに音象徴が関与していることが結論付けられた。

1. はじめに

ポケットモンスター(以下ポケモン)とは、1996年に発売されたゲームボーイ(携帯型ゲーム)用ソフトが原点で、現在第9世代にも及び、908種類のキャラクターが存在する。このシリーズでは、多くのポケモンが「進化」をして、新たな名前を持つ。さらに、進化したポケモンは、パラメーター(体長、重さ、攻撃力など)も増える。

ここで、音声学の基礎的な知識をもって、ポケモンの進化を見てみる。すると、「ヒトカゲ」→「リザード」→「リザードン」のように、進化するにつれて、阻害音(調音器官で気流が妨げられ、口腔内の気圧が上がることによって角張ったイメージを持つ音。また、濁音にできる音)が多く使われていることに気づく。このような、音そのものがある特定のイメージを喚起する事象のことを、音象徴という。(川原繁人・熊谷学而(2019)ポケモンの名づけにおける母音と有声阻害音の効果)

ここで、進化レベルだけでなくタイプで分類したときにも、ポケモン名が音象徴の観点から説明できるのではないかと考えた。

ポケモンで音象徴を研究する意義は、主に以下の3点である。1)実験対象の個体数が多く量的研究に適している。2)音声学や音象徴について知らなくてもとっつきやすく、わかりやすい。3)楽しい。これらはいずれもこれまであまり研究されてこなかった音声学の独自性である。

2. 研究手法

対象となるデータを収集するため、ポケモンWikiの記事(「ポケモン一覧」>「タイプ一覧」)を参考に、2021年12月の時点で存在するポケモンの中で、「ゴースト」タイプを抜き出した。

《実験》

①「ゴースト」タイプのポケモンを、メガ進化後を除いて抽出する。ポケモン名の文字数を分母(※1)、算出する阻害音、共鳴音、両唇音(※2)の数を分子におき、それらの和を求める方法で、それぞれの含有量を算出する。一般に、阻害音は角張ったイメージ、共鳴音と両唇音はとにも丸っこいイメージを表すものとされている。

②結果が「ゴースト」タイプに特別にみられる傾向であることを客観的に示すため、比較となる対照群として「フェアリー」タイプについても同様に算出する。「ゴースト」と「フェアリー」の性質を合わせ持つポケモンは両方ともに含む。

③2つのタイプと、阻害音、共鳴音、ならびに両唇音の数の相関分析を行う。

※1…分母とする文字数は、促音、拗音、長音符を除いている。

※2…分子とする両唇音はp行、p,b,mが続く「ん」とする。本来阻害音にもp行は含まれるが、重複するのでここでは省く。

以下は、取り扱った総勢116体のポケモンのタイプおよび名称

(ゴースト)

・ムウマ ・サニーゴ ・カゲボウズ ・ジュペッタ ・ヨワマル ・サマヨール ・ムウマー ジ ・ヨノワール・デスマス ・デスカーン ・ヤバチャ ・ポットデス ・レイスポス

(ゴースト×ノーマル)

・ゾロア ・ゾロアーク

(ゴースト×ほのお)

・ガラガラ ・バクフーン ・ヒトモシ ・ランプラー ・シャンデラ ・ズガドーン

(ゴースト×みず)

・プルリル ・ブルンゲル ・イダイトウ

(ゴースト×でんき)

・ロトム

(ゴースト×くさ)

・ボクレー ・オーロット ・バケッチャ ・パンプジン ・ジュナイパー ・タダリン

(ゴースト×こおり)

・ユキメノコ

(ゴースト×かくとう)

・マーシャドー

(ゴースト×どく)

・ゴース ・ゴースト ・ゲンガー

(ゴースト×じめん)

・デスマス ・ゴビット ・スナバァ ・シロデスナ デスバーン

(ゴースト×ひこう)

・フワンテ ・フワライド ・オドリドリ

(ゴースト×エスパー)

・フーパ ・ルナアーラ ・ネクロズマ ・バドレックス

(ゴースト×むし)

・ヌニケン

(ゴースト×ドラゴン)

・ギラティナ ・ドラメシヤ ・ドロンチ ・ドラパルト

(ゴースト×あく)

・ヤミラミ ・ミカルゲ

(ゴースト×はがね)

・ヒトツキ ・ニダンザル ・ギルガルド

(ゴースト×フェアリー)

・ミミッキュ

(フェアリー)

・ピィ ・ピッピ ・ピクシー ・トゲピー ・ブルー ・グランブル ・ニンフィア
・フラベベ ・フラエッテ ・フラージェス ・ペロッパフ ・ペロリーム ・シュシュブ
・フレフワン ・ゼルネアス ・キュワワー ・マホミル ・マホイップ ・ザシアン

(フェアリー×ノーマル)

・ププリン ・プリン ・プクリン ・ルリリ

(フェアリー×みず)

・マリル ・マリルリ ・アシレーヌ ・カプレヒヒ

(フェアリー×くさ)

・モンメン ・エルフーン ・ネマシュ ・マシェード ・カプブルル

(フェアリー×こおり)

・キュウコン

(フェアリー×でんき)

・デデンネ ・カプコケコ

(フェアリー×どく)

・マタドガス

(フェアリー×ひこう)

・トゲキッス ・トゲチック ・ラプトロス

(フェアリー×エスパー)

・ギャロップ ・バリヤード ・ラルトス ・キルリア ・サーナイト ・マネネ
・カプテテフ ・ブリムオン

(フェアリー×むし)

・アブリー ・アブリオン

(フェアリー×いわ)

・メレシー ・ディアンシー

(フェアリー×ゴースト)

・ミミッキュ

(フェアリー×あく)

・ベロバー ・ギモーン ・オーロンゲ

(フェアリー×はがね)

・クチート ・クレッフィ ・マギアナ ・ザシアン

3. 結果

《実験1》

データの総数は、「ゴースト」タイプ58体、「フェアリー」タイプ58体だった。結果、「ゴースト」タイプでは、阻害音29.20、共鳴音18.81、両唇音2.88であり、同様に「フェアリー」タイプでは、阻害音22.83、共鳴音21.25、両唇音5.13だった。

以下の図は、計算結果である(単位:文字数)。

	ゴースト	フェアリー
阻害音	29.20	22.83
共鳴音	18.81	21.25
両唇音	2.88	5.13

4. 考察

結果より、「ゴースト」タイプには阻害音が、「フェアリー」タイプには共鳴音と両唇音が多く含まれていた。よってポケモンの名付けには音象徴が関与していることが予想される。それぞれのタイプの多くのポケモンの見た目からも、阻害音が角張ったイメージを、両唇音・共鳴音が丸っこいイメージを喚起することが見てとれる。また、タイプと容姿に相違が生じるポケモンが存在することや、結果の数値に大きな差が見られないことは、ポケモンのタイプが純粋に1つだけで構成されているのではなく、複合されているものが多いからだと考えられる。

5. 結論

本研究では、タイプ別のポケモンの名付けにおける音象徴の関係を示した。このように、音声学は、本研究のように身近な題材を用いて示すことができる。また、ポケモンは、単なるポケモンの名前ですえ研究に昇華できるほどに設定が細部まで練り込まれているため、日本を代表するゲームシリーズにふさわしいといえる。今後の展望として、本研究の結果を支持するため、他のタイプでも成り立つのか、ということについても実証する必要がある。最後に、音声学および音象徴がより多くの人に興味、関心を抱かれることを強く望む。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

- 川原繁人(2017)『「あ」は「い」より大きい！？音象徴で学ぶ音声学入門』東京：ひつじ書房
- 川原繁人・桃生朋子(2017)音象徴の言語学教育での有効利用に向けて、『ウルトラマン』の怪獣名と音象徴音声研究
- 川原繁人(2017)ドラゴンクエストの呪文における音象徴：音声学の広がりを目指して
- 川原繁人・桃生朋子(2018)音象徴で言語学を教える，具体的成果の紹介を通して
- 川原繁人(2019)プリキュア名と両唇音の音象徴
- 川原繁人・熊谷学而(2019)ポケモンの名づけにおける母音と有声阻害音の効果
- 川原繁人・熊谷学而(2020)音韻素性に基づく音象徴：赤ちゃん用のオムツの名付けにおける両唇音象徴とは何か：タケテ／マルマ効果・ブーバ／キキ効果
- <https://www.nihongo-appliedlinguistics.net/wp/archives/7439>
- ポケモンWiki
- <https://wiki.xn--rckteqa2e.com/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>